

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01214

研究課題名（和文）大分県国東地域における伝統文化の記録保存と継承方法の模索

研究課題名（英文）Documentation and Preservation of Traditional Culture in Kunisaki Area, Oita Prefecture, and the Search for Methods of Transmission

研究代表者

黒田 一充（KURODA, Kazumitsu）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：60351491

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000 円

研究成果の概要（和文）：大分県国東半島は、六郷満山とよばれる天台寺院に宇佐を中心とする八幡信仰の影響が加わった独自の文化が形成された地域であり、この地で古くから伝わっている祭りや伝統行事、民俗信仰について、周辺地域の影響も加えて調査を行った。その結果、従来はこの地域の文化は山が中心と考えられていたが、半島の三方を囲む海や海を通じた交流も影響した伝統文化が今も伝承されていること、若者人口の減少による儀礼の休止や簡略化が、新型コロナウイルスの流行によってさらに加速しているが、地元の人びとやコミュニティー、とくに高齢者にとってこのような伝統行事が今も生きがいとなっていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、若者人口の減少や高齢化社会の進展によって、祭りや伝統行事、民俗芸能などが直面している維持継続の危機の問題が、地域社会の維持継続と一体のものであるととらえており、現在の厳しい状況に至った経緯を調査地域における伝統行事などの実態を通して分析・検討をすることを目指している。したがって、この研究で得られた知見は、単に調査地域だけのものではなく、同様の維持・存続の問題を抱えている全国各地の地域社会においても、危機改善に向けて一定の有効性、有益性をもたらすことが期待される。

研究成果の概要（英文）：The Kunisaki Peninsula of Oita Prefecture is a region where a unique culture has been formed, combining Tendai Temple called Rokugo Manzan with the influence of the Usa-Hachiman, and the festivals and traditional events that have been passed down in this area since ancient times. We conducted a survey on folk beliefs, including the influence of neighboring areas.

As a result, although the culture of this region was traditionally thought to be centered on mountains beliefs, it has been discovered that traditional culture influenced by the sea surrounding the peninsula on three sides and communication through the sea is still being passed down, and that due to the decline in the young population, Although the suspension and simplification of rituals has been further accelerated by the coronavirus pandemic, it has been found that these traditional events remain a source of motivation for local people and communities, especially the elderly.

研究分野：民俗学、民俗信仰史

キーワード：国東半島 祭り 民俗芸能 神仏習合 祭祀空間 生きがい

## 1. 研究開始当初の背景

大分県の国東半島は、古くから八幡信仰の影響による神仏習合が広がった地域で、六郷満山とよばれる天台宗系の寺院群が残っており、古くから修験道や荘園に関する研究が盛んに行われている。しかし、地域に密着した伝統行事や民俗芸能は、和歌森太郎を中心とする調査報告書の『くにさき』(1960年)以降でも、大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館『大分県の祭礼行事』(1996年)や、大分県立歴史博物館(大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館)の荘園調査に関連する民俗行事の報告(1983~2016年)が発表されているが、それ以外は修正鬼会などの仏教儀礼を除いて調査研究は進んでいない。特に、国東半島周縁の海浜部については、地元の市町村史に記載がある程度で、『くにさき』に報告があった儀礼の再確認もほとんど行われていない。

一方で、祭りや民俗行事を支える地元の人びとの高齢化により、儀礼の簡略化や休止が全国的に広がっており、国東半島もその例外ではない。祭りや儀礼を支えてきた人たち、とくに高齢者の方々を通して、この地域の伝統行事や民俗芸能の継承方法を模索するために本研究を計画した。

## 2. 研究の目的

調査を行う国東半島と周辺地域は、古くからの文化的伝承を保持している地域であり、これまでの研究や調査報告に記された伝統行事や民俗芸能が、現在どのような状況で継承されているのかを調査し、それぞれの儀礼の分析と再評価を行った。さらに伝統行事の継承の問題を、それらの儀礼を支える地元の人びとの意識からも分析し、高齢者が住み慣れた地域で生活をする上で、伝統行事がどのような役割を果たすのか、その継承にはどのような方法と問題があるかを明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究のメンバーは、研究代表者と3名の分担者から構成し、各自の民俗学の専門分野に応じて研究分担を行った。全体の統括は黒田が担当し、とくにこの地域の歴史的背景の考察と神社の祭祀空間や文化圏の問題を扱った。藤岡は民俗芸能を担当し、この地域で広く行われている地芝居や人形芝居のかつての分布状況と現状の様子の調査を試みた。高田は人の生と死の問題を担当し、葬送や墓制、盆行事など死者への供養の問題を取り上げた。森本は、伝統行事や伝統文化の継承の問題を扱ったが、とくにそれらの行事を守り伝えている地元の人びとの生きがいの問題との関連を重点的に調査した。

いずれも現地調査による儀礼の観察や地元の人からの聞き取りに加えて、図書館や公文書館などに残る文献資料の調査を行ったが、2020年から2022年春まで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行により、祭り・行事が中止、もしくは地元の方以外の参加が許可されなかったため、当初の計画の調査地や研究対象の変更を余儀なくされた。

## 4. 研究成果

### (1) 祭祀空間・文化圏

国東半島の神社を調査すると、半島の周縁部にある海岸沿いの集落では、祭りの際に神輿の渡御先となる御旅所(おたびしょ)が、社殿から見て海側に設けられているところが多い。それらの御旅所は建物があるところは少なく、広場か縁石で囲まれた区画となっており、敷地奥の海側に石壇が設けられている。祭りの際には神輿をその上に置き、神事が行われる。

御旅所は、全国の祭りで使われる一般的な呼称であるが、国東半島では海浜部の御旅所のことを、「浜殿(はまどの)」とよぶところが多い。また、内陸部にある神社の場合でも、近くを流れる川のそばに御旅所が設けられているところが多く、その中にも御旅所のことを「浜殿」とよぶところがある。「浜殿」という呼称は、神輿の渡御先となる海浜の聖地として、浜に敬称を付け

てよぶようになったと考えられるが、山の信仰に注目が集まる国東半島で、海の信仰も広く残っていることがわかる。

この浜殿の祭祀は、大分県内だけではなく、国東半島と周防灘を隔てた対岸にあたる山口県内の神社にも広がっており、文献資料でも九州各地の広範囲の神社の中世・近世史料に記述が見つかることから、かつては海浜にある浜殿に神輿が神幸する浜下りの儀礼が、広く伝播していたことがわかった。

## （２）民俗芸能

大分県下には、修正鬼会などの仏教行事をはじめとして、神社の祭りで奉納される神楽、獅子舞、白熊、御田植式、楽打ち、河童楽、盆踊り、風流、傀儡子、人形浄瑠璃、歌舞伎、杖楽、棒術など、さまざまな民俗芸能が伝えられている。

大分県下の祭礼行事について、大分県公文書館や大分県立図書館が所蔵する明治期の文献資料を調査したが、それらの資料には、「神楽」「御田植ノ式」「獅子舞」「手踊」「角力」「操人形」などの記述が見え、当時は多様な種類の民俗芸能が行われていたことがわかる。さらに、「芝居」「演劇」「雑劇」などの記述もあり、具体的な演目等はわからないが、国東半島とその周辺地域にある神社の祭りの際に、芝居や演劇が盛んに上演されていたことがうかがえる。さらに分布状況や上演時期などを、分析する予定である。

## （３）生と死

死生観を考察するため、おもに正月行事と盆行事について、国東半島の沿岸部で現地調査を実施した。国見町の民家では、座敷に作り付けの神棚と仏壇が隣合わせに設置されており、神仏棚と呼ばれている。このような祭祀形態から、神仏習合が深く浸透していることがうかがえる。

正月準備として12月30日に餅搗きをする。お供え用の一重の餅を五つ作り、注連縄を張った神棚に三重、仏壇に一重を供える。12月31日の夕食前に家族全員が神仏棚に参る。その後、年越しそばを食べて、伊美別宮社・八坂社・田中社に参る。これを三社参りという。元旦には座敷の神仏棚にお参りして、雑煮を食べる。

盆行事は月遅れで行われ、新仏の供養に特色がある。新仏の家では故人の子供らが灯籠を準備し、座敷に飾る。灯籠は天井からつるす豪華なもので、盆の数か月前から業者に注文して作ってもらう。盆の期間に親戚や知人が新仏の家にお参りに行く。

墓制は、単墓制の家墓であり、共同墓地はない。

『屋敷神の研究』（直江廣治著 1966年）などで、国東半島には「小一郎様」という屋敷神が祭祀されていることが報告されているが、本調査では聞くことができなかった。一方、屋敷荒神を祀る家があった。屋敷の建物ごとに屋敷荒神を祀る事例がみられ、土地神であると推定される。屋敷荒神については今後もさらに事例を収集し、その性格を明らかにしたい。

## （４）伝統文化の継承

2020年から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による感染拡大防止のため、祭りなどの伝統行事は全国的に中止や一般公開はせずに簡略化して関係者のみで行うというような対策が講じられた。国東半島およびその周辺地域でも同じような対策がとられていたが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、行事が再開し、一般公開もされるようになった。

今回調査した国東半島の修正鬼会などでは、地域の人だけでなく観光客も多数訪れており、どの場所でも、地元の行事に関わる人びとは行事が再開できたことを喜ばしいことだと捉えていた。さらに、伝統行事の継承について聞き取りをすると、かつて行事を担う寺院の僧侶の減少や廃寺、檀家の減少などの危機的状況にありながらも、他の寺院の協力や地域の住民の参加へと裾野を広げていっており、伝統行事を継続するには、信仰だけでなく、変化しながらも伝統を継承

しようとした地域の人たちの働きかけが影響していた。

このような、地域社会における行事の変遷をみることは、その地域が獲得したソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の構造がわかり、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようなネットワーク構築のための一助となるものである。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1．著者名 黒田一充	4．巻 87
2．論文標題 浜降りの儀礼	5．発行年 2023年
3．雑誌名 阡陵：関西大学博物館彙報	6．最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 森本安紀	4．巻 88
2．論文標題 九州の松会における伝統儀礼の継承	5．発行年 2024年
3．雑誌名 阡陵：関西大学博物館彙報	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究 分担者	森本 安紀  (MORIMOTO Aki)  (30632997)	滋賀県立大学・人間看護学部・准教授   (24201)	
研究 分担者	藤岡 真衣  (FUJIOKA Mai)  (20774607)	関西大学・研究推進部・非常勤研究員   (34416)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究 分 担 者	高田 照世  (TAKADA Teruyo)  (70737866)	帝塚山大学・文学部・教授     (34601)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------